

シンハラ語とゾゾ語のナル相当動詞

宮岸 哲也 (安田女子大学)

要旨

本発表では、ナル相当動詞の意味範囲に関する言語の系統的・地理的・類型的影響を、シンハラ語とゾゾ語の事例を通して考察する。

スリランカのシンハラ語（インド・アーリア語派）では、「ナル」に相当する動詞が「出来」「変化」「存在」「コピュラ」のすべての意味を表す。一方、シンハラ語と接触関係にあるドラヴィダ語族のタミル語では、「ナル」相当動詞は「出来」「変化」「コピュラ」に限定される。シンハラ語における多義的な用法は、他のインド・アーリア諸語でも広く確認されることから、この言語におけるナル相当動詞の意味的特徴は、接触よりも系統的要因が主要な要素である可能性が高い。

これに対し、中国雲南省のミャンマー国境付近で話されるゾゾ語（チベット＝ビルマ語派）では、ナル相当動詞は「変化」のみを表す。この特徴は、ゾゾ語が接触している中国語にも共通して認められる。一方、同じチベット＝ビルマ語派でインド・アーリア語派のネパール語と接触しているネワール語では、ナル相当動詞が「出来」「変化」「存在」「コピュラ」のすべてを表す。ゾゾ語とネワール語の比較からは、ナル相当動詞の意味範囲は、系統的要因よりも接触言語の影響を受けやすい場合があることが示唆される。

さらに、ナル相当動詞の意味範囲には、類型的要因も影響している可能性がある。具体的には、語順の違いよりも、孤立語的か否かといった形態的性格の方が、意味範囲の広がりに関連する傾向があると考えられる。

1 はじめに

本発表では、「ナル的表現研究会」において発表者が担当したシンハラ語およびゾゾ語における「ナル」相当動詞の意味範囲を比べ、その系統的、地理的（特に言語接触）、類型的要因の影響を探る。そのために、ドラヴィダ語族のタミル語、インド・アーリア語派のネパール語、チベット＝ビルマ語派のネワール語、そしてシナ語派の中国語における「ナル」相当動詞も取り上げる。特にネパール語とネワール語を取り上げるのは、シンハラ語が属するインド・アーリア語派言語と、ゾゾ語が属するチベット＝ビルマ語派言語の接点にあるからである。

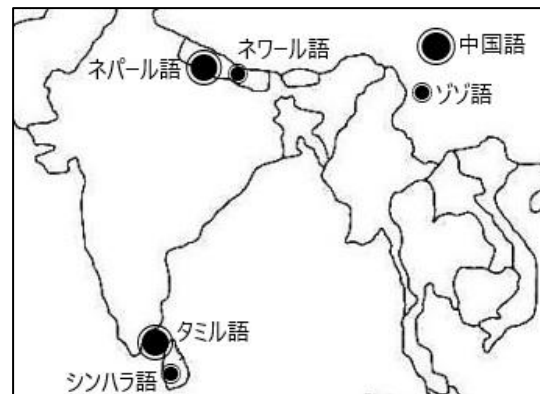


図 1 本発表で扱う言語の接触地域

2 シンハラ語とゾゾ語の概要

シンハラ語は、印欧語族インド・アーリア語派南インド語群に属し、約 2,100 万人の母語話者を有するスリランカの国語の一つである。ゾゾ語（中国語名：若柔語、英語名：Zauzou）は、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派口語支（彝語支，Loloish）に属し、中国雲南省怒江リス族自治州で話され、母語話者は約 3,000 人である。

3 本発表における「ナル相当動詞」の定義と研究方法

本研究会（ナル的表現研究会）では、「ナル相当動詞」を日本語「ナル」の表す「出来・変化」の意味を専用に表す動詞と定義している（守屋 2025: 14）。但し、通言語的に見て、「ナル相当動詞」は「出来（出

現)」よりも「変化（推移）」を表す場合が多い。11 言語を調べた守屋(2025: 15)の調査では、「ぶどうがなりました」のような「出来」を表すナル相当動詞を持つ言語は 3 言語（モンゴル語、トルコ語、アラビア語）であるのに対し、「氷が解けて水（に／φ）なる」のような変化を表すナル相当動詞を持つ言語は 11 言語の全て（3 言語に加え、朝鮮語、中国語、ベトナム語、ペルシャ語、シンハラ語、ロシア語、ドイツ語、フランス語）であった。そのため、「ナル相当動詞」を幅広く通言語的に見ていくためには、便宜上「変化」を基本的意味として扱った方がよい。

本発表では、「ナル相当動詞」を「変化」を主に表す動詞と定義し、それが「出来」「存在」「コピュラ」などの意味・用法を持つかどうかを、シンハラ語、ゾゾ語、タミル語、ネパール語、ネワール語、中国語を対象に調べた結果を報告する。そして、その結果から、シンハラ語とゾゾ語のナル相当動詞の意味について、系統的、地理的（言語接触）、類型的要因があるかどうかを考察する。なお、「出来」については、生じる事物が果実でも事故や災害等でも特に区別せず、同じ意味として扱う。

4 シンハラ語

シンハラ語は屈折語的な SOV 言語で、動詞に活用がある。膠着語的な特徴も持ち合わせ、格を後置詞によって標示する場合もある。関係代名詞はなく、動詞の連体形が名詞の前に直接来る形で関係節が作られる。存在動詞が主語の有生性の有無で区別される。

4.1 シンハラ語のナル相当動詞 *wenāwā*

シンハラ語は、ナル型の表現に対応する受動動詞を発達させた出来事志向の言語である (Chandralal 1987)。受動動詞の一つでもあるナル相当動詞の *wenāwā* は、本動詞と補助動詞のどちらにも使われ、「出来」「変化」「存在」「コピュラ」の用法を幅広く持つが、本発表では、本動詞用法のみを取り上げる。

① 変化

シンハラ語では、「A が B になる」のような変化を表わす文を A（主格）B（主格）*wenāwā*（なる）で表わされる（シンハラ語の主格は無標識）。B が形容詞である場合は、形容詞がそのままの形で用いられる（形容詞は語形変化しない）。「朝／昼／夜になる」のような文も *wenāwā*（なる）が用いられる。主格名詞が主語になる。

- (1) a. *mamə hadisiyēmə piḷikā rōgiy-ek wunā.*
私 突然 癌 患者-INDF なる.PST
「私は突然癌患者になってしまった。」
b. *takkāli ratu wenāwā.*
トマト 赤い なる「トマトが赤くなる。」
(2) *udē wunā. dawal wunā. rāe wunā.*
朝 なる.PST 昼 なる.PST 夜 なる.PST
「朝になった。昼になった。夜になった。」

② 出来

シンハラ語では、出来事全般の「出来」には *wenāwā* を用いる。しかし、「実がなる」のような意味は、*hædenāwā*（作られる）のような受動動詞が用いられる。また、「春になる」のような文は、動詞 *enāwā*（来る）が用いられるので、「出来」と考えたい。

- (3) a. *podī anətur-ak wunā. giṭār ekə poḍḍak mūṇ-ē wæduṇā!*
小さい 事故-INDF なる.PST ギター 少し 顔-LOC 当たる.PST
「ちょっとした事故が起こった。ギターが顔に少し当たってしまった。」
b. *kos gahē geḍiy-ak hædenāwā.*
ジャックフルーツ 木.LOC 実-INDF 作られる
「ジャックフルーツの木に実がなる。」

c. *wasantəyə āwā*.

春 来る.PST 「春が来た。」

③ 存在

シンハラ語では、存在を表わす文は、主語の有生性の有無で区別する存在動詞 *innəwā* (いる) と *tiyenəwā* (ある) で表わされる。しかし、やや文語的な表現では、存在動詞の代わりに *wenəwā* が使われることもある。その場合、主語の有生性の有無による区別はなくなる。また、場所を表わす名詞は、指示代名詞に限られ、一般名詞を使うことはできない。

(4) a. *mamə dannə ekə kāntāw-ak innəwā*.

私 知る.VA 1 女性-INDF いる「私の知っている女性が一人いる。」

b. *kañdu mudunəkə tiyenə memə gammānəyə-ṭə māsə 06-k irə eliyə tiyenəwā*.

山 頂.LOC ある.VA この 村-DAT 月 6-INDF 太陽 光 ある。

「山頂に位置するこの村に、6 か月間太陽の光が当たる。」

(5) a. *ehi ohugē pemwētā wanə isuru baṇḍārə naməti ayə da ehi wenəwā*.

そこ 彼.GEN 恋人 なる.VA イスル バンダラ 名前の 人 も そこ.LOC なる。

「そこに彼の恋人であるイスル・バンダラという人もそこにいる。」

b. *ē wagēmə adhikərəṇṇə śālāw-ak da mehi wenəwā*.

そして 裁判 ホール-INDF も ここ.LOC なる 「そして、裁判所もここにある。」

④ コピュラ

シンハラ語では、コピュラ文は (6a) のように2つの主格名詞を並べるだけでよい。しかし、やや文語的な表現では、(6b) のように *wenəwā* をコピュラとして使うこともできる。

(6) a. *mamə guruwərəy-ek*

私 教師-INDF 「私は教師です。」

b. *āriyaratnə, koḷaṃbə nālandā widyālayəy-ē hiṭapu guruwərəy-ek wenəwā*.

アリヤラトネ氏 コロンボ ナーランダ 学校-LOC いる.PST.VA 教師-INDF なる

「アリヤラトネ氏はコロンボのナーランダ学校の元教師である。」

5 ソゾ語

ゾゾ語は孤立語的な SOV 言語で、動詞に活用はない。膠着語的な特徴も持ち合わせ、格を後置される助詞によって標示する場合もある。関係代名詞はなく、中国語の「的」のような名詞を修飾する助詞 *xo53* により関係節が作られる。存在動詞を主語の有生性の有無で区別する点では、日本語やシンハラ語とも共通する。ゾゾ語は声調言語であり、55 (高高)、53 (高中)、35 (中高)、33 (中中)、31 (中低)、13 (中低) の6声調を持つ。ゾゾ語は無文字の言語であるため、国際音声記号で表記する。

5.1 ソゾ語のナル相当動詞 *tce33* と *teyi35*

ゾゾ語には、ナル相当動詞として主なものには *tce33* と *teyi35* がある。いずれも「変化」を表すが、その構文的なふるまいは互いに異なる。また、形容詞や名詞の後に完了や断定を表す助詞 *zo31* を付加することでも、「変化」を表すことができる。

tce33 は形容詞や名詞の後に来て、「変化」を表わす。

(7) a. *ŋo33 tsā33 mi53 tce33*. (宮岸 2025: 217)

少し 積もる 多い なる

「塵も積もれば山となる。」

b. *thā35 nu53 sɿ33 nã55 ʔa33 za33 ʔie33 sɿ33 tce33 tho53*. (宮岸 2025: 218)

将来 子供 この CLF.human 金持ち なる できる
「将来、この子供はお金持ちになることができる。」

teyi35 は形容詞の前に来て、「変化」を表わす。

(8) *zā53 tehi55 tsi33 mō53 teyi35 ne33 zo31*. (宮岸 2025: 219)

トマト CLF.PL なる 赤い PRF 「トマトが赤くなった。」

teyi35 は副詞的にふるまう修飾助詞 *xo53* の後にも来て、「変化」を表わす。

(9) *na13 tehe53 nã55 za33 si31 ʔẽ33 xo53 teyi35 zo31*. (宮岸 2025: 219)

乳 吸う 小さい CLF.human 歩く できる MDF なる PRF 「赤ん坊が歩けるようになった。」

また、形容詞や名詞の後に完了や断定を表す助詞 *zo31* をつけることでも、「変化」を表わせる。

(10) a. *ʔa33-pe55 nã53 ja53 ne33 mā35 zo31* (Li 2020: 621)

私-PL.INC 2 CLF:human TOP 老いる FP.assr 「私たち二人は年をとった。」

b. *sæ53-pho53 pho53 nĩ55 zo31* (Li 2020: 657)

木-葉 CLF:limb 緑 FP.assr 「木の葉が緑になった。」

c. *tuɿ33 ʔa55-tei53 ne55 lɔ31sɿ31 tɔ31 ja53 zo31* (Li 2020: 622)

彼 この-時 TOP 教師 1 CLF:human FP.assr 「彼は今教師になった。」

5.2 ソゾ語の出来、存在、コピュラ

ゾゾ語のナル相当動詞は、「出来」「存在」「コピュラ」の意味・用法を持たない。それぞれは他の動詞が担う。

① 出来

ゾゾ語における「出来」に相当する表現には、複数の動詞が用いられる。「実がなる」に相当する表現は、(11) に示すように *ta53* (付ける) によって表される。地形が形成される場合には、(12) に示すように *le13* (来る) が用いられる。また、季節や昼夜のような周期的現象を表す場合には、「ナル」に相当する動詞ではなく、(13) に示すように *tẽ33* (到達する) が用いられる。さらに、出来事の発生には (14) のように *thuɿ53* (出る) が、疾病や災害の発生には (15) のように *tehi13* (ある) が用いられる。

(11) *ei31 tẽ33 ʔa33 va53 ne31 tuu55 lɛ31 ta53 pi13 tẽ33 zo31*. (宮岸 2025: 221)

桃 CLF.tree 今年 TOP その CLF.fruit 付く 与える ACV FP.assr
「桃の木が今年の実がなってくれた。」

(12) *ʔɔ31 tu31 lɔ31 ʔɔ31 tã31 xo55 sũ31 le13*. (宮岸 2022: 244)

山 高い PRL 地 平らな どの よう 来る 「高い山と平地はどのようにして出来たのか。」

(13) a. *lẽ33 ʔuo33 tẽ33 zo31*. (宮岸 2025: 220)

春 到達する PRF 「春が到来した。」

b. *sɔ33 ku55 tẽ33 ne33, ɳɔ31 lɔ13 lɛ31 ʔɔ31 tã33!* (宮岸 2025: 220)

夜 間 達する COND 2.SG 月 CLF.round object DAT 願う
「夜が来たら、お前は月に願いなさい。」

(14) *ʔa55 vɔ13 ʔe31 tɔ31 va53 nã53 va53 tɔ31 tẽhã13~tẽhã13 thuɿ53 le13* (Li 2020: 380)

この CLF:versatile も 1 年 2 年 1 度 度 出る 来る
「そのような状況も、1~2年に数回くらい起こる。」

- (15) a. pe31 tehi13 ʔe31 xua13 fe53 vae55 ɲə:55 xe31 (Li 2020: 77)
 病気 ある も 化学肥料 遣る 言う.EMP FP.assr
 「病気になったのも、化学肥料を与えたことが原因だと言っていた。」
 b. [pẽ13 mō53 teo53 xo33] la31-ne55 tehi13 ʔa31 ku33 (Li 2020: 758)
 土地 CLF:PL.inani 崩れる NMLZ;LINK FP.assr-TOP ある NEG EXP
 「地盤が崩壊したことは、これまで一度も起きていない。」

② 存在

ゾゾ語の存在は無生主語の場合は *tehi35* (ある) で、有生主語の場合は *ɲi33* (いる) で表される。

- (16) a. ei31 tsẽ33 thie31 mi33 tsẽ31 tehi35. (宮岸 2022: 122)
 桃 CLF.tree 下 服 新しい ある
 「桃の木の下に新しい服がある」
 b. la13 tẽã31, muu31 ku55 muu31 zo31 tuu31 za53 ɲi33. (宮岸 2022: 243)
 古い 時 天 上 天 子 1 CLF.human いる
 「昔、天上に一人の天子がいた。」

③ コピュラ

ゾゾ語のコピュラ文は(17a)のように二つの名詞の間に主題マーカ―*ne31* を置く場合と、(17b)のように否定文の場合や、過去と現在を比較するような場合には、判断動詞 *ɲe53* がコピュラとして用いられる。

- (17) a. tu55 ne31 ɲo33 xue33. (李・李 1993 : 12)
 彼 TOP 私 友人「彼は私の友人だ。」
 b. tu55 ʔa33 ne33 tshã33 pu13 mō35 sɿ33 ʔa31 ɲe53, ʔa33 tẽi53 tshã33 pu13 mō35 sɿ33 ɲe53 zo31.
 彼 去年 本 教える 人 NEG である 現在 本 教える 人 COP FP.assr
 「彼は去年教師でなかったが、現在教師である。」 (宮岸 2025: 221)

6 タミル語

タミル語は主にインド南部とスリランカの北東部・中央部の高地地帯で使われるドラヴィダ語族の言語である。スリランカ国内においてタミル語は国語の一つとして位置付けられているが、多数派のシンハラ語のほうが優勢である。一方で、南インドを含めたこの地域では、タミル語はシンハラ語よりも優位にある。タミル語はシンハラ語との長い言語接触の歴史を持ち、シンハラ語の親族名称などにはタミル語由来の基礎語彙も含まれる。類型的には、文法的機能を担う種々の接辞を付加して語形成を行う膠着型言語であり、後置詞を持つ SOV 語順の言語である (小林 2023: 85)。関係節は動詞の活用形である関係分詞 (relative participle) によって作られ (Asher and Annamalai 2002: 135)、関係代名詞は用いられない。

6.1 タミル語のナル相当動詞 āku (ஆகு)

タミル語のナル相当動詞 *āku* で、「変化」を表すほか、「出来」と「コピュラ」の意味を持つ。

① 変化

āku が変化の意味で用いられる場合、変化の結果は与格ではなく、主格（無標識）で標示される。

- (18) avan mantirieriyavan āki vittān. (Steever 2005: 209)
 彼.NOM 大男.NOM なって [不測を表す助動詞].PST
 「彼は大男になった。」
 (19) 12 maṇi āccu. (宮本 2012: 98)
 12 時-NOM なる. PRF 「12 時になった。」

② 出来

āku は(20) のように出来事の発生を表す場合でも用いられる。

(20) a. *eṇṇa āccu?* (宮本 2012: 98)

何 なる.PRPF 「何が起こったの？」

b. ஆழ்கடலில் நிகழ்ந்த நிலநடுக்கம் ஆகும். (https://anbukodi.blogspot.com/2010/09/1_29.html)

Āḷkatal-il nikaḷnta nilanaṭukkam ākum.

深海-LOC 生じる.PP 地震 なる「深発地震が起きる。」

なお、タミル語＝英語辞典 (Lifco Publishers 2008: 622)によれば、*nāru* (நாறு)という動詞が、emit smell (臭いを出す)、appear (現れる)、be born (生まれる)、sprout (発芽する)、smell (匂う)のような様々な「出来」の意味を表すようである。但し、タミル語のコンサルタントによれば、このような意味でこの動詞が使われるのは、タミル語古典文芸であるサンガムの中であり、現代タミル語では、異なる動詞が用いられる。

(21) a. *vēṭaṇai maraṇkaḷ nāri* (Book: Cīvaka cintāmaṇi Song No : 1389)

苦難 木 芽生えた「苦難の木が芽生えた。」

b. *vēṭaṇai eṇṇa maram mulaittatu.* (現代タミル語、コンサルタント Nagarathnam 氏の作例)

苦難 の 木 芽生えた「苦難の木が芽生えた。」

③ コピュラ

タミル語では、(22) のようにコピュラ文を2つの主格名詞を並べるだけでも作れるが、(23)のように *āku* を使うこともできる。

(22) a. *eṇ peyar yikiko.* (ジョイ、袋井 2007: 28)

私の 名前は ユキコ 「私の名前はユキコです。」

b. *indac chaāṭṭai evvaḷavu? irunūru rūbāy.* (ジョイ、袋井 2007: 29)

この シャツ いくら 200 ルピー

「このシャツはいくらですか。」 「200 ルピーです。」

(23) *madure-kki oru kavaru-kku evḷavu ākum? mūṇu rūbā ākum.* (Asher and Annamalai 2002: 47)

マドライ-DAT 1 封筒-DAT いくら なる.FUT 3 ルピー なる.FUT

「マドライまでの手紙はいくらになりますか。」 「3 ルピーになります。」

6.2 タミル語の存在

タミル語では、存在は (24) のようにナル相当動詞ではなく、主語の有生性の有無に関わらず、存在動詞の இரு (*iru*) によって表される。

(24) a. *stēṣaṇ aṅgē iru-kkiṛ-adu.* (ジョイ、袋井 2007:29)

駅 あそこに ある.PRES-3SG-N 「駅はあそこにある。」

b. *inda rūmil kosu adigamāga iru-kkiṛ-adu.* (ジョイ、袋井 2007:50)

この 部屋 蚊 たくさん いる.PRES-3SG-N 「この部屋には蚊がたくさんいます。」

7 ネパール語

ネパール語は、インド・アーリア語派インド語群北部語群の言語で、ネパール全土で使用される、この公用語でもある。また、インドやブータンの一部でも使用されている。類型的には屈折語的な SOV 言語である。関係節は、関係代名詞を使うこともあるが、その必要度は低く、現在分詞や過去分詞を使って日本語と同じような語順で修飾する方が一般的である (石井 1985: 229)。

7.1 ネパール語のナル相当動詞 *hunu*

ナル相当動詞は *hunu* であり、「変化」「出来」「コピュラ」「存在」の意味を持つ。

① 変化

変化はナル相当動詞 *hunu* の現在形 *huncha* で表わされる (石井 1985: 64, 86)。

- (25) a. मलाई सुरुमा म शिक्षक हुन्छु जस्तो लाग्दैनथ्यो । (https://www.samadhannews.com/wp-content/uploads/2022/10/Kartik-5.pdf)
Malāī surumā ma śikṣaka hunchu jastō lāg-daina-thyō.
私.DAT 最初 私 教師 なる.1.SG ように 思う-NEG-PST
「私には最初、私が教師になるとは思えなかった。」
- b. u ahile birāmī cha. tara cāḍai niko huncha (holā) (石井 1985: 108)
彼 今 病気 ある しかし すぐに よく なる.3SG.PROB
「彼は今病気です。しかし、すぐによくなる (でしょう) 。」

② 出来

ネパール語では、いくつかの基本的な動詞で「出来」を表すことができる。ネパール語読本 (三枝・ビニタ 1989:118) には、「行く」を表す動詞「जानु」(*jānu*) と「来る」を表す आउनु (*āunu*) が、それぞれ地震の発生を表す例がある。

- (26) a. हिजो राती ठूलो भुइँचालो गयो, तपाईंले थाहा पाउनुभयो ? (三枝・ビニタ 1989:118)
Hijō rātī thūlō bhu'iṁcālō gayō, tapā'īnlē thāhā pā'unubhayō?
昨日夜 大きい 地震 行く.PST あなた.HON 知識 得る.HON.PST
「昨晩大きな地震があったんだけど、ご存じでしたか。」
- b. नेपालमा भुइँचालो आउनुको कारण चाहिँ (三枝・ビニタ 1989:117)
Nēpāla-mā bhu'iṁcālō āunu-kō kāraṇa cāhiṁ
ネパール-LOC 地震 来る-NMLZ 理由 ついて
「ネパールで地震が起こる理由は…」

しかし、インターネット上には、ナル相当動詞による地震の発生を表す用例もある。(27) は書き言葉的な文で、地震を意味する *bhūkampa* もサンスクリット語由来の語である。*bhayō* はナル相当動詞 *hunu* の 3 人称単数過去形である (石井 1985: 100)。

- (27) ६.५ म्याग्नीच्युडको भूकम्प भयो. (https://www.kathmandutoday.com/2019/02/364939.html)
6.5 Myāgnīcyuḍakō bhūkampa bhayō.
6.5 マグニチュード 地震 なる.3SG.PST
「マグニチュード 6.5 の地震が発生した。」

③ 存在

ネパール語の存在は、(28a,b) のように存在動詞の *cha* によって表されるが (石井 1985: 42, 44, 45)、(28c) のように *ho* によっても表される (石井 1985: 49)。*ho* はナル相当動詞 *hunu* の 3 人称単数現在形である。石井 (1985: 49) によれば、(28 c) は、*ho* のほうが *cha* よりも普通に用いられるようである。この理由は、*ho* が 個体レベル (恒常的・本質的な性質の表現) の存在を表すのに対し、*cha* は 段階レベル (一時的・状態的な表現) の存在を表す (Butt and Poudel 2007: 5) ことと関係するかもしれない。

- (28) a. म घरमा छु. (https://hinative.com/questions/8856761)
Ma ghara-mā chu.
私 家-LOC いる 1SG.PRES 「私は家にいます。」

- b. koṭhā-mā tebul cha. (石井 1985: 44)
 部屋-LOC 机 ある 3SG.PRES 「部屋に机があります。」
 c. tapāñharū-ko ghar kahā [ho / cha]. (石井 1985: 49)
 あなた方-GEN 家 どこ なる 3SG.PRES / ある 3SG.PRES
 「あなた方の家はどちらにありますか。」

④ コピュラ

ネパール語のコピュラは、文法書 (石井 1985: 42, 48-51) では *ho* とされている。この *ho* はナル相当動詞 *hunu* の 3 人称単数現在形である (石井 1985: 66)。

- (29) a. yo kalam ho (石井 1985: 42)
 これ 本 なる 3SG.PRES 「これは本です。」
 b. ma jāpāni hū (石井 1985: 66)
 私 日本人 なる 1SG.PRES 「私は日本人です。」
 c. yo kitāp rāmro ho (石井 1985: 52)
 この 本 よい なる 3SG.PRES 「この本はよいです。」

存在動詞の *cha* がコピュラになる場合もある (石井 1985: 51, 52)。(30)で *cha* が使われているのは、Butt and Poudel (2007: 5) の言う通り、*cha* が一時的な状態を表しているためであろう。逆に(29)で *ho* が使われるのは、*ho* が恒常的な状態を表すこと (Butt and Poudel 2007: 5) と関係があるだろう。

- (30) a. अहिले म विद्यार्थी छु, (<https://www.youtube.com/watch?v=qkjetPUKVKE>)
 Ahilē ma vidyārthī chu.
 今 私 学生 ある 1SG.PRES 「私は今学生です。」
 b. saru bhakta aaja khusi chan. (Butt and Poudel 2007: 5)
 サル バクタ 今日 幸せ ある PRES.3.M.HON 「サル・バクタは今日幸せです。」

8 ネワール語

ネワール語はゾゾ語と同じチベット・ビルマ語派の言語で、ネパールのカトマンズ盆地で使用されている。主な方言としてはカトマンズ方言 (Kathmandu Newar) とドラカ方言 (Dolakha Newar) があり、本論文では、前者を K.Nwr、後者を D.Nwr のように示し、区別する。ネワール語はインド・アーリア語派のネパール語と接触しており、2 世紀以上の影響を受けている (Noonan 2003: 76)。ネワール語は家族や友人との非公式な状況で使用され、教育や仕事の場など公式な状況では公用語のネパール語が使用される (Gautam 2018: 36, 37)。

ネワール語は、ゾゾ語の同様に SOV 言語であるが、膠着語的で動詞活用がある点でゾゾ語とは異なる。関係節については、桐生(2002: 2002, 226) によれば、𑍧 (mha: 有生・単数)、𑍧𑍧 (pim: 有生複数)、𑍧𑍧𑍧 (gu: 無生) の関係詞によって作られ、これらは形容詞が名詞を修飾するときの連体辞と同じである。Genetti (2007: 312) では名詞化辞 (nominalizer) が関係節を作ると述べている。これらは接辞であり関係代名詞とは異なる。

8.1 ネワール語のナル相当動詞 जुये (juye)

ネワール語のナル相当動詞は、जुये juye [K.Nwr] /jur [D.Nwr] である (桐生 2002:189, Genetti 2007: 280)。

① 変化

ネワール語の変化は、ナル相当動詞の *juye* [K.Nwr] /jur [D.Nwr] によって表される。(31b)は動詞的形容詞 (adjectival verbs) の名詞化接辞 *ku* の後に *jur* を続けた例である。

- (31) a. राम जिमि पासा जुल । (桐生 2002: 189)
 rām jimi pāsa jul-a. [K.Nwr]
 ラム 私.GEN 友達 なる-3SG.PST 「ラムは僕の友達になった。」
 b. kae dṡwā-ku jur-a [D.Nwr] (Genetti 2007: 200)
 息子 大きい-NMLZ なる-3SG.PST 「息子が大きくなった。」

また、juye [K.Nwr] /jur [D.Nwr] を使わずに、動詞的形容詞の定動詞形 (finite form)によっても、変化を表すことができる(Genetti 2007: 201)。

- (32) a. थौंकन्हय बाया सँ भच्चा तुयुल । (桐生 2002: 197)
 thaunkanhay baaya san bhachcha tuyu-la. [K.Nwr]
 最近 父 髪 少し 白い-3SG.PST 「最近お父さんの髪の毛が白くなった。」
 b. uku thi-tān cij-na gustule bāmalat-a. [D.Nwr] (Genetti 2007: 201)
 ここ 1-タイプ もの-ABL とても 悪い-3SG.PST
 「ここは一つの点でとても悪くなっている。」

② 出来

juye [K.Nwr] /jur [D.Nwr] は、出来事の出現を表すことができる(桐生 2002:190、Genetti 2007: 281)。

- (33) a. thijita dukkha jur-a. [D.Nwr] (Genetti 2007: 282)
 1.PL.INC トラブル なる-3SG.PST 「私たちにトラブルが生じた。」
 b. ट्राफिक एक्सिडेण्ट जुल । (寺西 2004: 48)
 traaphik eksident jul-a. [K.Nwr]
 交通 事故 なる-3SG.PST 「交通事故が起きた。」
 c. थ्व छँय् जंकु भव्य जुइगु खः ला ? (桐生 2002:190)
 thv chhany janku bhvay jui-gu khā la ? [K.Nwr]
 この 家で お食い初め なる-NMLZ 予定か。
 「あなたの家ではお食い初めが開かれる予定ですか？」

③ コピュラ

コピュラはコピュラ動詞の状態形の *khā* [K.Nwr] / *khyay* [D.Nwr] を添える場合と *jū* [K.Nwr] / *jur* [D.Nwr] を添える場合がある(桐生 2002: 146,148、Genetti 2007: 281)。全ての文にコピュラを付けることはあまりなく、特に会話体ではよく省略される (桐生 2002: 160)。

- (34) a. जि जापानी खः । (桐生 2002: 146)
 ji jāpānē (khā). [K.Nwr]
 私 日本人 COP 「私は日本人です。」
 b. āmu mandir bāla-ku khyay. [D.Nwr] (Genetti 2007: 277)
 あの 寺 美しい-NMLZ COP 「あの寺は美しい。」

jū [K.Nwr] / *jur* [D.Nwr] はナル相当動詞の状態形であり、カトマンズ方言では属性を表す形容詞のいくつかに *jū* が付き(桐生 2002: 148)、ドラカ方言では過去の状態を示すために、*khyay* の代わりに *jur* が使われる(Genetti 2007: 280)。

- (35) a. तसकं बांला: जू । (桐生 2002: 148)
 tasakaṃ bānlā jū. [K.Nwr]
 とても よい なる 「とても良いですね。」

- b. ām ʔuhurā jū. [D.Nwr] (Genetti 2007: 280)
 彼 孤児 なる.3PA 「彼は孤児だった。」

④ 存在

カトマンズ方言、*दये* (*daye*) の状態形 *दु* (*du*) と *चने* (*chwane*) が存在を表わし、前者は変化しない場所、後者は変化する場所を表す (桐生 2002: 154)。また、ドラカ方言では、存在動詞の *dar* が存在を表す (Genetti 2007: 191)。

- (36) a. थन डाक्टर गन दु ? (桐生 2002: 154)

than daaktar gan du ? [K.Nwr]

ここで 医者 どこ いる 「ここでは医者はどこにいますか。(病院の場所を尋ねる)」

- b. व डाक्टर गन् चनाच्चन ? (桐生 2002: 154)

wa daaktar gan chwanaachwan? [K.Nwr]

その 医者 どこ いる.PROG 「その医者はどこにいるの。(居場所を探している)」

- c. āmu ŋā-e pyāṭā dupān hirā-e mālā da-u. [D.Nwr] (Genetti 2007: 287)

その 魚-GEN 胃袋 中 ダイヤ-GEN 首輪 ある-3PA

「ダイヤの首輪がその魚の胃の中にあった。」

しかし、Genetti (2007: 282) は、一人のコンサルタントによるデータから、存在を表す *jur* が 2 例あったことを述べている。ただ、*du* とどのように使い分けるかは不明である。

- (37) a. dāti-ku tāto dāi jur-a. [D.Nwr] (Genetti 2007: 282)

真ん中-LOC タート兄 なる-3SG.PST 「真ん中にタート兄さんがいた。」

- b. ji-uri hākhena jur-gi. [D.Nwr] (Genetti 2007: 283)

私-IND 前 なる-1SG.PST 「私は前にいた。」

9 中国語

中国語は SVO 語順であり、SOV 語順のゾゾ語とは基本語順で異なるが、どちらも声調があり、テンスによる動詞の語形変化がない点では同じである。中国語からゾゾ語には古い時代から現在に至るまで多くの語が流入している (宮岸 2022: 55, 56)。中国語は、ゾゾの人々にとって買い物、学校、職場などでの公的な場面で、第二言語として不自由なく使用される。

9.1 中国語のナル相当動詞“成”

中国語のナル相当動詞について、徐 (2025) は、“成”や“生”のような「ナル」動詞があるが、日本語の「ナル」動詞ほど自由に、幅広く使われていないと述べている。この二つの動詞では主に「変化」が“成”、“出来”が“生”を表しているので、本発表では“成”を中国語のナル相当動詞として扱う。(38) は“成”を用いた「変化」の例である。

- (38) a. 长大成人。「成長して一人前の人間になる。」(徐 2025: 185)

- b. 积土成山。「塵が積もって山となる。」(徐 2025: 185)

その他に、完了や結果を表す“了”が (39) のように状態を表す形容詞や名詞の後に使われると、変化の「結果」を表すことができる (徐 2025: 186, 189)。

- (39) a. 孩子们睡了，就安静了。「子どもたちが寝て、静かになった。」(徐 2025: 186)

- b. 西红柿红了。「トマトが赤くなった。」(徐 2025: 186)

9.2 中国語の出来、存在、コピュラ

① 出来

中国語の「出来」は、(40a,b) のように“生”で表わせることが多いが、(40c-e) のように、それ以外の動詞が用いられる場合もある。これらの動詞が表す「出来」は(40a-d) のように「存現文」(動詞の後ろに来る名詞が意味上の主語になる文)になる(徐 2025: 187) 場合もあれば、(40e) のように、主語が文頭に来る通常の語順をとる場合もある。

- (40) a. 生病。「病が発生する(発病する)。」(徐 2025: 188)
- b. 生孩子。「子供が生まれる。」(徐 2025: 188)
- c. 今年结了很多葡萄。「今年は、ぶどうがたくさんなりました。」(徐 2025: 186)
- d. 发芽。「芽が出る。」(徐 2025: 188)
- e. 春天来了/春天到了。「春が来た。」(徐 2025: 185, 186)

また、「出来」の意味を表す二文字の動詞で構成されたフレーズもある。

- (41) a. 发生故障。「故障が発生する。」(徐 2025: 189)
- b. 产生效果。「効果が現れる。」(徐 2025: 189)

更に、(42) の例は、名詞の後に“了”がついた場合でも、「出来」を表わすことができる。

- (42) 春天了。「もう春になった。」(<http://www.chinese1.jp/ABC/vol7.asp>)

② 存在

中国語の存在表現として、徐 (2025: 187) では、存在動詞“有”を用いた表現を示している。「出来」の場合と同様に「存現文」の構造になる。

- (43) a. 桌子上有一本书。「机には本がある。」(徐 2025: 187)
- b. 教室里有一个学生。「教室には学生がいる。」(徐 2025: 187)

しかし、ある人や物の存在位置を述べる文では、存在動詞“在”を用いるが、この場合は、「存現文」の構造にならない。

- (44) a. 我的手机在桌子上。「私の携帯電話は机の上にある。」
- b. 他在学校。「彼は学校にいる。」

③ コピュラ

中国語では、コピュラは“是”で表される。ただし、これは述語が名詞の場合であり、形容詞の場合は、コピュラを用いない。

- (45) a. 我是学生。「私は学生です。」
- b. 她(*是)很漂亮。「彼女は美しい。」

10 考察

本発表で扱った6言語の「変化」「出来」「存在」「コピュラ」の表し方を表1に纏める。また、表1をもとにナル相当動詞の意味範囲に、類型特徴と系統と接触地域のデータを加えたものが表2である。

言語	変化	出来	存在	コピュラ
シンハラ語	wenəwā	wenəwā, enəwā hædenəwā	wenəwā tiyenəwā / innəwā	wenəwā φ
タミル語	āku	āku, nāru 他	iru	āku φ
ネパール語	hunu	hunu jānu, ānu	hunu cha	hunu cha
ネワール語	juye / jur 動詞的形容詞の定動詞形	juye / jur	juye / jur du	juye / jur khyaj φ
ゾゾ語	tɛ33 / tɛyi35 形容詞・名詞+zo31	ta53, le13 他	tehi35 ŋi33	ne31 ŋɛ53
中国語	成、 形容詞・名詞+了	生、結、発、来、到 形容詞・名詞+了	有 在	是:名詞 φ:形容詞

表1 6言語の「変化」「出来」「存在」「コピュラ」の表し方の対照

	変化	出来	存在	コピュラ	系統	語順	関係節	接触地域
シンハラ語	○	○	○	○	インド・アーリア	SOV	動詞活用	スリ
タミル語	○	○	×	○	ドラヴィダ	SOV	動詞活用	ランカ
ネパール語	○	○	○	○	インド・アーリア	SOV	動詞活用 関係代名詞	ネパール
ネワール語	○	○	○	○	チベット＝ビルマ	SOV	接辞	
ゾゾ語	○	×	×	×	チベット＝ビルマ	SOV	助詞	中国 雲南省
中国語	○	×	×	×	シナ	SVO	助詞	

表2 6言語の「ナル相当動詞」の対照

10.1 6言語におけるナル相当動詞の意味範囲と系統的特徴

「変化」を表すナル相当動詞は、6言語すべてに認められる。しかし、形容詞の変化形や助詞の付加によっても変化の意味を表すことができるのは、ネワール語・ゾゾ語・中国語の3言語である。これらの言語はいずれもシナ＝チベット語族に属し、他の語族に属するシンハラ語・ネパール語・タミル語とは系統的に区別される。「変化」の表し方に系統的要因が関与している可能性があり、この点については今後さらに検討する価値がある。

「出来」がナル相当動詞によっても表される言語は、6言語のうちシンハラ語・タミル語・ネパール語・ネワール語の4言語である。ただし、「出来」を表す動詞は様々であり、どのような種類の「出来」がナル相当動詞によって表されるのかについては、今回の調査では十分なデータが得られなかったため、今後さらなる調査が必要である。ゾゾ語と中国語では、「出来」と「変化」は異なる動詞によって表される。

「存在」がナル相当動詞によって表されるのは、6言語のうちシンハラ語・ネパール語・ネワール語の3言語である。ただし、これらの言語には一般的な存在を表す専用の動詞が別があり、ナル相当動詞による存在表現は限定的である。シンハラ語では、ナル相当動詞が存在の意味をもつのは指示代名詞とともに用いられる文語的表現に限られる。ネパール語では、恒常的な存在を表す場合にナル相当動詞が用いられる。ネワール語では、ナル相当動詞の存在用法は一部のコンサルタントによる例にのみ見られ、存在動詞との使い分けは明確ではない。

「コピュラ」がナル相当動詞によって表されるのは、6言語のうちシンハラ語・タミル語・ネパール語・ネワール語の4言語である。ただし、これらの言語においてコピュラ文でナル相当動詞を用いることは必須ではない。シンハラ語・タミル語・ネワール語カトマンズ方言では、コピュラを用いずに名詞を並べるだけでコピュラ文を作ることができる。シンハラ語では、コピュラ文におけるナル相当動詞の使用は文語的表現に限られる。ネワール語ドラカ方言では、コピュラ文においてナル相当動詞が用いら

れるのは過去時制の場合であり、それ以外では コピュラの *khyag* が用いられる。ネパール語では、一時的な状態を表す際にはナル相当動詞の代わりに存在動詞が用いられる。また、ネワール語・ゾゾ語・中国語においては、ナル相当動詞とは異なるコピュラ専用の語が存在することが確認された。この特徴がシナ＝チベット語族という系統的背景とどの程度関連しているのかについては、今後さらにデータを集めて分析する必要がある。

10.2 6言語におけるナル相当動詞の意味範囲と類型の特徴

本発表で対象とした6言語の基本語順は、中国語のみが SVO であり、それ以外の5言語はいずれも SOV である。本研究会で分析してきた諸言語を見る限り、ナル相当動詞が広範な意味を持つ言語は主として SOV 型であり、一方、中国語などの SVO 言語では、ナル相当動詞の意味が「変化」に限られていた。同じく SVO 言語であるベトナム語においても、ナル相当動詞の意味範囲は中国語と同様である(清水 2025)。しかし、ゾゾ語は SOV 言語でありながら、ナル相当動詞の意味が「変化」に限定されている点で特異である。今後、このようなゾゾ語の特徴がアジア諸言語の中でどの程度分布しているか、同系統・同類型の他言語を対象に検討する必要がある。

また、6言語のうち、関係節を動詞の活用によって形成するシンハラ語・タミル語・ネパール語では、ナル相当動詞の意味範囲が比較的広い傾向が見られる。接辞によって関係節を形成するネワール語も同様に、ナル相当動詞の意味拡張が認められる。一方、助詞によって関係節を標示するゾゾ語と中国語では、ナル相当動詞は主として「変化」の意味に限られる。ゾゾ語と中国語はいずれも孤立語的性格が強く、関係節の標示手段としても独立性の高い助詞が用いられるが、この点とナル相当動詞の意味拡張の有無とのあいだには、ある程度の類型的対応が示唆される。

なお、多くのインド・アーリア語派の言語は、関係代名詞を持つものの、シンハラ語は例外である(Bhatt 2003: 488)。また、ドラヴィダ諸言語は関係代名詞を持たない(Subbārāo 2012: 156)。シンハラ語に関係代名詞がないのは、タミル語の影響である可能性が高い。また、ネパール語の関係節で関係代名詞よりも、動詞活用が優勢になりつつあるのは、ネワール語の影響があるのかもしれない。

10.3 シンハラ語とゾゾ語におけるナル相当動詞の意味と言語接触の影響

シンハラ語とタミル語とのあいだに言語接触が存在することは確かであるが、今回の調査結果がその言語接触とどのように関係しているのかについては、現時点では明らかでない。この関係を解明するためには、今後、他のドラヴィダ語族の言語についても調査を行う必要がある。ただし一つ言えるのは、シンハラ語のナル相当動詞の意味には、隣接するタミル語よりも、地理的に離れた同系言語であるネパール語との共通点が多く見られるということである。

ゾゾ語は地理的にはネワール語から離れているが、両言語はいずれもチベット＝ビルマ語派に属する。ただし、両者は下位分類が異なり、前者はロロ・ビルマ語群(Lolo-Burmese)、後者はボディッシュ語群(Bodish)に属する。これら二つの言語において、ナル相当動詞が表す意味範囲は大きく異なっていたが、それぞれの地域で接触している優勢言語とは共通していた。すなわち、ネワール語のナル相当動詞の意味範囲はネパール語と同様に「変化」「出来」「存在」「コピュラ」であり、ゾゾ語のナル相当動詞の意味範囲は中国語と同じく「変化」に限られていた。

チベット＝ビルマ語派諸語において、ナル相当動詞がどのような意味範囲を持つのかという地域的・系統的傾向については、今後さらにデータを収集・分析する必要がある。しかし、ゾゾ語とネワール語を比較する限りでは、言語接触が意味範囲の形成に大きく関与している可能性が高い。

11 おわりに

今後の課題としては、Emeneau (1956) や Masica (1976) が想定するインド言語圏諸語における「ナル」相当動詞について、さらなる検討が必要である。とくに、タミル語を除くドラヴィダ諸語については本研究会で未検討のままであり、その全体像を把握するには至っていない。また、オーストロアジア語族のムンダ諸語における「ナル」相当動詞の実態についても、今後調査を進める必要がある。同語族に属するベトナム語については清水(2025)によるデータが利用可能であり、両者を比較することで、系統的要因や言語接触の影響を明確にしうる。さらに、ゾゾ語やネワール語を含むチベット＝ビルマ語

派の諸言語、ならびにシンハラ語に近縁なモルディブのディベヒ語についても、検討を加えることが望まれる。その上で、将来的にはタイ・カダイ語族やオーストロネシア語族など、他の語族の諸言語へも対象を拡張する必要があるだろう。

略語

1 一人称 2 二人称 3 三人称 ABL 奪格 ACV 達成相 CLF 類別詞 COND 条件 COP コピュラ
DAT 与格 EMP 強調 FP 終助詞 EXP 経験 FUT 未来 GEN 属格 HON 敬語 INC 包括形
IND 個体化助詞 INDF 不特定 LINK 連結詞 LOC 位格 M 男性 N 中性 MDF 修飾助詞
NEG 否定 NMLZ 名詞化辞 NOM 主格 PA 先過去 PL 複数 PP 完了分詞 PRES 現在形
PRF 完了相 PROB 推量 PROG 進行形 PST 過去 SG 単数 TOP 主題 VA 動詞連体形

参考文献

- Asher, R.E. and Annamalai, E. (2002) *Colloquial Tamil: The Complete Course for Beginners*. London and New York: Routledge
- Butt, Miriam and Poudel, Tikaram (2007) Distribution of the ergative in Nepali. MS, University of Konstanz.
- Chandralal, Dileep (1987) 「シンハラ語の受身文について」 日本言語学会第 94 回大会口頭発表要旨
https://ls-japan.jp.org/modules/documents/index.php?content_id=332
- Emeneau, M. B. (1956). India as a Linguistic Area. *Language* 32(1), 3–16.
- Gautam, Bhim Lal (2018) Language shift in Newar: a case study in the Kathmandu Valley. *Nepalese Linguistics*, vol. 33 (1), 33-41.
- Genetti, Carol (2007) *A Grammar of Dolakha Newar*. Berlin · New York: Mouton de Gruyter
- Li, Yu (2020) *A Grammar of Zauzou*. Ph.D. dissertation. The State University of New York at Buffalo.
- Masica, C. P. (1976) *Defining a linguistic area: South Asia*. Chicago: University of Chicago Press
- Noonan, M. (2003). Recent language contact in Nepal Himalaya. In D. Bradley, R. LaPolla, B. Michailovsky, & G. Thurgood (Eds.), *Language variation: papers on variation and change in the Sinosphere and in the Indosphere in honour of James A. Matisoff* Pacific Linguistics, 65-88.
- Bhatt, Rajesh (2003) Locality in Correlatives. *Natural Language & Linguistic Theory* 210: 485–541.
- Steever, Stanford B. (2005) *The Tamil Auxiliary Verb System*. London and New York: Routledge
- Subbārāo, Kārumūri V. (2012) *South Asian Languages: A Syntactic Typology*. Cambridge University Press
- 石井 溥 (1985) 『基礎ネパール語』 大学書林
- 桐生和幸 (2002) 『ネワール語文法』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 工藤順之 (2025) 「サンスクリットにおける「ナル的表現」 動詞語根 bhū-の用法」 守屋 他編 (2025) pp. 231-237 所収
- 小林 颯 (2023) 「タミル語における関係節 —斜格名詞句が関係節化する際にみられる制約について」
『思言 東京外国語大学記述言語学論集』 19 号. pp. 85-92
- 三枝礼子・パント, ビニタ (1989) 『ネパール語で話しましょう』 大学書林
- 清水政明 (2025) 「ベトナム語の「ナル的表現」」 守屋 他編 (2025) pp. 223-229 所収
- 徐 一平 (2025) 「中国語の「ナル的表現」」 守屋 他編 (2025) pp. 209-215 所収
- 寺西芳輝 (2004) 『話せるネワール語会話 (ネパールの民族語)』 国際語学社
- 袋井由布子・ジョイ, カルパナ (2007) 『タミル語入門』 南船北馬舎
- 宮岸哲也 (2022) 『ゾゾ語 (若柔語) 文法』 安田女子大学実践教育研究所
- 宮岸哲也 (2025) 「ゾゾ語の「ナル的表現」」 守屋 他編 (2025) pp.17-22 所収
- 宮本 城 (2012) 『ニューエクスプレス タミル語』 白水社
- 守屋三千代・池上嘉彦・角道正佳・栗林裕・岡智之・宮岸哲也編 (2025) 『「ナル的表現」をめぐる通言語的研究—認知言語学と哲学を視野に入れて』 ひつじ書房
- 守屋三千代 (2025) 「日本語の「ナル表現」と調査項目の概要」 守屋 他編 (2025) pp.11-19 所収
- 李紹恩・李志恩 (1993) 『怒族若柔語言資料集』 昆明: 雲南民族出版社